

關東州及南滿洲鐵道附屬地並滿洲國ニ於ケル度量衡制度ノ運用ニ關シ  
左記ノ通申合ス

昭和九年十月三十一日

關東廳內務局商工課長	金井溫治
關東廳權度所主任	加藤 闡
實業部權度局總務科長	風早義確
同 企畫科長	高橋文夫

記

第一南滿洲鐵道附屬地（以下單ニ附屬地ト稱ス）及其ノ近接地ニ於テ  
ハ尺貫法及滿洲國ノ尺斤法ヲ當分ノ内相互ニ認ムルモノトス  
第二度量衡器ノ販賣又ハ計量器ノ修理若ハ販賣ノ營業許可ニ關シテハ  
滿洲計器股份有限公司（以下單ニ公司ト稱ス）ト契約ヲ完了シタ  
ル者ニ限り許可スル方針ヲトルモノトス  
第三公司ト公司ノ買收セル營業者トノ契約履行ニ付テハ公司援助ノ方

針ニ基キ適當ナル措置ヲ講スルモノトス

第四附屬地及其ノ近接地ニ於ケル度量衡器及計量器（以下單ニ計器ト  
稱ス）其ノ他ノ取締ニ關シテハ相互ニ充分ノ連絡ヲトリ之ヲ行フ  
モノトス

第五附屬地及其ノ近接地ニ於テ營業ヲ許可シ停止シ又ハ取消シタルト  
キハ相互ニ通知スルモノトス

第六關東廳ハ自家用計器ノ修理ヲ許可制度ノ運用ニヨリ可及的公司ノ  
事業タラシムルモノトス

第七公司ノ計器卸賣ニ關シテハ關東廳ノ許可ヲ受ケタル販賣者ニハ關  
東廳ノ檢定證印アル計器ヲ滿洲國ノ許可ヲ受ケタル販賣者ニハ滿  
洲國ノ檢定證印アル計器ヲ販賣セシムルモノトス

第八附屬地及其ノ近接地ニ於テ使用スヘキ尺貫法及尺斤法計器ニシテ  
其ノ單位名稱ヲ混淆スル虞アルモノニハ「日」「滿」ノ記號ヲ附  
記セシムルモノトス

說明

本件ハ滿洲國度量衡制度ト關東州度量衡制度（關東州及南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）トノ相互異ナル法制並運用上ノ障礙ヲ除去シ又ハ衝突ヲ緩和スル爲元々四月以來數次ノ折衝ヲ經テ今回其ノ最終的成案ヲ得タルモノニシテ今後ハ本申合ニ依リ相互運用上ノ圓滑ヲ期シ得ヘキモノト信ス

第一ハ滿洲國ノ尺斤法施行ト關東州ノ尺貫法施行トノ衝突ヲ緩和スル爲ノ申合事項ニシテ就中經過規定ニ於テ尺斤法ハ五箇年ノ猶餘期間ヲ認メ尺貫法ハ十五箇年ノ猶餘期間ヲ認メタルヲ以テ其ノ運用上「當分ノ内」相互ノ施行上ノ效力ヲ認メムトスルモノナリ

第二ハ度量衡制度ノ統制強化ト兼テ滿洲計器股份有限公司ノ事業經營ノ圓滿ナル發展ヲ助長セムトスル申合事項ニシテ嚮ニ公司カ買收セル業者ヲ完全ニ統制シ得ルハ勿論買收セサル業者ト雖許可處分ノ運用ニ依リ其ノ統制ニ服セシメ得ルノ途ヲ拓キタルモノナリ蓋シ買收セラレ

タル業者ハ買收完了ト同時ニ廢業シ改メテ販賣許可ノ申請ヲ爲スヲ要シ買收セラレサル業者ト雖今後其ノ許可期間（五年）ヲ經過シタルトキハ本項ニ依リ公司ト契約ヲ締結スルニ非サレハ許可ノ申請ヲ爲シ得サルコトトナリタルヲ以テ公司ハ其ノ買收シタルト否トヲ問ハス一切ノ業者ヲ其ノ統制下ニ置クコトヲ得ヘシ

第三ハ公司カ買收シタル業者カ其ノ統制ニ違背セムトスル場合ノ監視的申合事項ナリ即チ業者中公司トノ契約ニ違反シテ單獨ニ度量衡器物ノ製作乃至輸入ヲ企ツルモノアルトキハ本申合ニ依リ直ニ其ノ販賣許可ヲ取消スコトヲ得ヘシ

第四及第五ハ南滿洲鐵道附屬地及其ノ近接地ニ於ケル度量衡ノ販賣業者並一般使用者ノ取締ニ當リ相互ノ連絡ヲ保持セムトスル申合事項ニシテ例ヘハ滿洲國ト關東廳トハ特定ノ地域ニ於ケル器物ノ検査ハ事前ノ打合ニ依リ一齊検査ノ方法ヲ採ルコトトスル便宜アルヘク又法規違反又ハ公司トノ契約ニ違反シテ許可ヲ取消サレ停止セラレタルカ如キ

滿洲帝國政府

モノニ對シテハ相互通知スルコトニシタルヲ以テ其ノ取締上ノ勵行ヲ期シ得ルニ至リタリ

第六ハ滿洲計器股份有限公司ノ事業助長ノ趣旨ニ從ヒ度量衡法ノ規定ニ拘ラス計器ノ修繕モ可及的公司ノ獨占タラシメムトスル申合事項ニシテ例ヘハ南滿洲鐵道ノ如ク自家用器物ヲ大量ニ修繕スルモノニ對シテハ其ノ許可制度ノ運用ニ依リ可及的公司ニ委嘱スル様態憑又ハ強制スルコトサルヘシ

第七及第八ハ計器ノ販賣分野ノ相異ナルニ從ヒ又ハ度量衡制度ノ相違ヨリ生スルコトアルヘキ紛淆ヲ防止スル爲夫々ノ檢定證印アル器物ノ販賣ヲ強要シ又ハ「日」「滿」夫々ノ記號ヲ附記セシメ以テ器物ノ混亂ヨリ惹起セララルヘキ障礙ヲ除去セムトスルモノナリ